

## 審 議 結 果

会 議 名	第2回川口市交通安全対策協議会
開 催 日 時	令和5年3月20日（月） 午後2時から3時まで
開 催 場 所	第一本庁舎6階 601大会議室
出 席 者 (会長に◎、副会長に○)	別紙会議録に記載
議 題	(1) 市内の交通事故状況について (2) 令和3年の市内の交通事故の統計データについて (3) 川口市交通事故発生実態等に即した重点目標について
公開／非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由	
傍 聴 人 の 数	0名
会 議 資 料	別紙のとおり
審 議 経 過	別紙会議録のとおり
そ の 他	

会議録

名 称	川口市交通安全対策協議会
日 時	令和5年3月20日（月） 午後2時00分～3時00分
会 場	第一本庁舎6階 601大会議室
出席者	<p>（委 員） ◎石原美知子、○佐藤征己、峯岸ヨシ子、中原栄次、原島潔、平田清武、矢作知久、鶴見文治、小堀貴紀 山本智久</p> <p>（幹 事） 満保利光、北嶋貴行、福田晃三、松嶋広昌、丸山陽一</p> <p>（事務局） 石坂部長、春原課長、小野補佐、輿石補佐、山田係長</p>
概 要	<p>1 開会</p> <p>（事務局） 令和4年度第2回川口市交通安全対策協議会を開会する。</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>（会長） 昨年の全国の交通事故死者数は、2,610人と前年比26人の減少となり、1948年の統計開始以来、過去最小を更新した。</p> <p>県内では、昨年1年間の交通事故死者数は104人で前年より14人の減少となったが、昨年は2月、3月、5月、9月に1ヶ月間の交通事故死者が10人に達したことから「交通死亡事故多発警報」が発令され、広く皆様に交通事故防止への協力を訴えたところでもある。川口市においては、交通事故死者数は7人と、前年より2人の減少となったが、7人全てが高齢者であり、高齢者の方へ、通行中の危険性について認識していただくなどの啓発が必要であると、改めて感じる。</p> <p>本年もこのような中、川口、武南両警察署、関係各位のご協力をいただきながら、市民一丸となり、交通安全運動の取り組みをなお一層の連携・協力を保ちながら「交通死亡事故ゼロ」を目指していきたいと考えている。</p> <p>当協議会が有意義になるように、委員の皆様の協力を得ながら、運営していきたい。</p> <p>3 議事</p> <p>（事務局） 川口市交通安全対策協議会条例第7条により、会長を議長とし議事を進行する。</p>

(議 長) 議題(1)市内の交通事故状況について、満保幹事に説明をお願いします。

(幹 事) 令和4年の交通事故状況を説明する。埼玉県内の交通事故死者数は104人で、全国でワースト8位であったが、前年からの減少数は14人で、全国で3番目であった。交通事故死者数は104人で、昭和29年以降最小の人数を更新し、交通人身事故件数及び負傷者数についても、平成23年以降12年連続で減少している。交通事故死者を年齢別で見ると、65歳以上の高齢者が65人、全体の62.5%を占めており、2年連続で60%を超えている状況である。交通人身事故全体を状態別で見ると、約半分が歩行中の事故であり、道路を横断する際の左右確認が不十分だったことによる事故が多く発生した。

なお、川口市内の交通事故発生状況としては、資料1ページ、人身事故1,219件、前年比1件減。死者数7人、前年比2人減。負傷者数1,360人、前年比34人減。物件交通事故9,576件、前年比381件増。10年前と比較すると、平成24年の人身事故件数は1,092件減、負傷者数は1,317人減と大幅に減少した。一方、人身事故と物件事故の交通事故総件数では大きく変化はない状況である。人身事故件数が減少している理由としては、車の安全性能の向上、道路環境の改善、人々の安全に対する意識の変容によるものと考えられる。物件事故を含めた交通事故総件数は減少していないことから、人身事故件数もいつ増加に転じてもおかしくないという認識をもつ必要がある。

また、事故の原因では脇見が819件で最も多く、全体の67.4%、次いで一時不停止が72件となっている。死傷者数を年齢層別で見ると40歳代が247人で一番多く、次いで30歳代が241人となっている。死傷者の状態別で見ると自動車乗車中が563人、次いで自転車が412人となっている。

交通死亡事故については、7人すべてが75歳以上の高齢者である。原因としては歩行者妨害が3件、脇見が2件、状態別では歩行中が5人、自転車乗車中が1人、2輪車乗車中が1人となっている。ここで資料2ページ、市町村別高齢者死傷者数等についてであるが、川口市の死傷者数は、県内72市町村中さいたま市に次いで2番目に多い数となってお

り、死者数は7人中全員が高齢者となっている。

続いて令和5年1月の市内の交通事故発生状況については、交通死亡事故は発生していないが、交通人身事故が77件、前年比5件減、負傷者数92人、前年比1人増、物件交通事故は732件、81件減となっている。

死亡事故抑止対策目標として、チャレンジキープ0と称し、交通死亡事故0日数の継続を目指し、きらめきトリプルH運動（早めのライト・反射材着用・歩行者保護）を中心とした交通事故抑止対策に皆様の協力をいただきながら取り組んで参りたい。また、埼玉県警では歩行者優先及び道路の正しい横断に関する交通ルールの定着化に向けた取り組みの強化を推進している。埼玉県警で導入している交通事故分析システムを活用しながら、交通事故多発地域を分析し、多発エリアにおいて、取り締まりや交通安全キャンペーンの実施、交通安全教育等の推進強化に取り組んでいく。

また、4月1日から改正道路交通法が施行され、現在は幼児・児童が自転車を運転する時に、保護者が幼児・児童にヘルメットを着用させることを努力義務としているが、この改正により、全年齢層において自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されることになる。川口・武南警察署ともに、悲惨な交通事故の減少に向けて、ご説明した対策を積極的に実施して参りたい。皆様には、死亡事故の抑止に向けた対策に賛同いただき、安全な道路環境の実現にご尽力いただきたい。

(議長) 今の説明に対して質問は。

(委員) 自転車のヘルメットはどのようなところで購入できるのか。

(幹事) 自転車販売店や、現在は法改正に向けて、量販店でもコーナーを設けて販売しているようである。

(委員) 努力義務から義務化に移行していくのか。

(幹事) 自動車の安全性能が向上し、死亡事故が自転車乗用中のみ、というような状況になれば、そうなるかもしれない。

(議長) 他に何かあるか。

(委員) 特になし。

(議長) 議事(2) 令和3年の市内の交通事故の統計データについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 令和4年の交通事故発生状況の詳細な内容については、議事1のとおりであるが、大きく分けてどのような事故が多いのか、移動手段別の死傷者数の割合や年齢別の死傷者数の割合を説明する。なお、これから説明する議事2については、統計データがまとまっていないため、令和3年中のデータによる説明になる。

資料3 ページ「1 類型別件数」について、説明の前に、類型別の区分けについての補足説明をさせていただく。円グラフの下の表の一番左、車両相互の車両とは、※印1のとおり、自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスを指しており、自転車は含んでいない。その右の自転車対車両とは、※印2のとおり、自転車相互及び自転車対車両を指している。この表の件数を割合で表示したものが上の円グラフとなる。円グラフを見ると、右半分、自転車を除く車両相互の事故が件数で約半数、自転車相互並びに自転車対車両の事故が34%で約3分の1、歩行者対自転車を含む車両の事故が15%で約6分の1となっている。

次に「2 状態別死傷者数」のうち、左側、死者数を見ると歩行中が56%を占めており、自転車乗用中が33%となっている。上の「類型別件数」と比較すると、歩行者対車両は上のグラフでは15%に対し、死者数では歩行中56%と、歩行中の交通事故が死亡につながる割合が高いことがわかる。一方右側の負傷者数をみると、上の類型別件数の円グラフと比較して、上のグラフでは歩行者対車両15%に対し、右下のグラフでは歩行中13%、上のグラフでは自転車対車両34%に対し、右下のグラフでは自転車乗用中30%、上のグラフでは車両相互50%に対し、四輪車乗用中と二輪車乗用中を足して57%と、負傷者数は事故件数の割合に類似しているような状況である。

資料4 ページ、「3 年齢層別死傷者数」については、右側の負傷者数は年代ごとの差はさほど大きくないが、左側の死者数は65歳以上の方

が9人中7人と、約8割を占めている。

このように令和3年中の交通事故を類型別、状態別、年齢層別で見ると、交通事故で亡くなっているのは、歩行中や自転車乗用中の高齢者の方が多く、高齢者の方には、歩行中や自転車乗用中には周囲の車両等に十分気を付けていただく必要があり、また、車両の運転手は、歩行や自転車乗用中の高齢者がいた場合には注意していただく必要があると考えられる。今後もこうした傾向をとらえ、周知啓発して参りたい。

(議長) 何か質問等はあるか。

(委員) なし。

(議長) 議事(3) 川口市交通事故発生実態等に即した重点目標について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料5 ページ上段に記載の3項目が、令和5年度の本市「重点目標」の事務局(案)である。また、その下には、参考として、過去の重点目標を掲載している。

令和5年度は、「子供と高齢者の交通事故防止」「自転車の交通ルールの徹底」「飲酒運転の根絶」の3点を、引き続き重点目標としたい。なお、「第11次川口市交通安全計画」においても、以上3点を、交通安全対策の重点としている。資料6 ページ、第11次川口市交通安全計画は、当協議会でも昨年度ご審議いただいたもので、令和3年度から7年度までの5か年にわたり、3交通安全対策の重点に挙げた3点を重点目標とし、本市が交通安全対策の総合的かつ計画的な推進を図るために実施する各種施策を策定したものである。

資料5 ページに戻り、重点目標(案)とした理由を説明する。

1点目の「子供と高齢者の交通事故防止」は、議事の(1)で説明した本市の交通事故発生状況において、中学生以下の子供の交通事故死傷者数が、令和3年の83人から令和4年は84人へ、65歳以上の高齢者の交通事故死傷者数が、令和3年の199人から令和4年は232人へそれぞれ増加しており、また、高齢者が犠牲となる痛ましい死亡事故が発生していることから、引き続き「子供」と「高齢者」を重点対象と

したい。

次に、2点目の「自転車の交通ルールの徹底」については、川口市内の交通事故の状況として、資料戻り議事2の3ページ下段、2 状態別死傷者数の左の円グラフにもあるように、死者数は歩行中に次いで自転車乗用中が多く、右の円グラフ、負傷者数は四輪車乗車中に次いで自転車乗用中が多いことから、今後も市民総ぐるみで自転車の安全利用を推進し、市民が安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指すためにも、引き続き重点目標としたい。

資料5ページに戻り、最後に、3点目の「飲酒運転の根絶」は、飲酒運転が重大事故に繋がる大変危険な行為であり、根絶に向けて、継続した取り組みが必要であることから、引き続き重点目標としたい。

(幹 事) 昨日までの今年度救急搬送された市立学校の子供の交通事故件数を参考に報告する。小学校が51件、中学校が47件、高等学校が3件、状態別では自転車乗用中が76件、歩行中が20件、その他キックボードなどが5件となっている。10月以降の夕刻以降の事故が多く、交差点での一時不停止が原因であることが多い。

また、平成23年か24年に市内の小学生在が、ローラーシューズで止まることができずに、トラックの下敷きになり重体となってしまったという事故を受けて、川口市補導会においてスケートボード、ローラースケート、ローラーシューズ、キックボードの公道での使用は禁止と指導しているが、いまだに使用が見受けられるので、教育委員会としてもしっかり指導して参りたい。

(議 長) 議事(3)について、質問や意見はあるか。

(委 員) なし。

(議 長) 事務局の原案どおりとすることに決定する。

(議 長) 以上で議事は終了だが、意見等はあるか。

(委 員) 高齢者の事故が多いことや市の重点目標を「子供と高齢者の

交通事故防止」にするという説明があったが、川口・武南警察署の啓発活動はかなり活発に実施しているものの、川口市は高齢者施設、高齢者団体ともに多いと思うので、そうしたところに直接呼びかけるなど、啓発を実施していくとよいのではないか。

(幹 事) 警察では、先ほど説明した交通事故分析システムを利用して、交通事故発生状況のデータと市町村から提供された人口のデータを取り込み、高齢者が多く住んでいる地域と事故の発生場所をクロスさせて、その地域を中心に高齢者世帯訪問を実施している。この世帯訪問では交通事故のみならず、特殊詐欺についても呼びかけをおこなっている。今後は世帯訪問と合わせて、高齢者が集まる場所で効率的に呼びかけを実施して参りたい。

また、川口・武南警察署において、市の薬剤師会に働きかけ、薬局の窓口でのチラシの配架や呼びかけを実施している。今後も病院などでもそうした啓発をできるよう働きかけを行って参りたい。

(委 員) 街頭での呼びかけよりも世帯訪問の方が効果が高いと考えられるので、積極的に実施していただきたい。

(議 長) 他に意見等はあるか。

(委 員) 飲酒運転が後を絶たないというのは、居酒屋などに車で行った帰りに飲酒運転をしているのか。それとも家で飲酒した後に出かけているのか。これだけ世間の意識も高くなってきているのに、どのような状況で見られるのか。

(幹 事) 家族がいる家庭で飲酒後に運転するようなことはないし、業務中の飲酒運転については、少し前に八街市で業務中に飲酒運転をして起きた大きな事故があったが、現在は厳罰化され、業務中の運転についてアルコールチェック等の強化もされているので、減少している。やはり多いのは飲食店での飲酒後に飲酒運転をしてしまうケースである。飲食店もドライバーへの酒類の提供が罪になるため、確認は徹底していると思うが、少し離れた駐車場に駐車して歩いて飲食店に行くなど、店



が把握できない状況で飲酒運転をしているのであると考えられる。今後  
も取締りの強化、店への指導を徹底して参りたい。

(委 員) 都市部よりも郊外の方が多いのか。

(幹 事) 郊外の方が交通の便が悪く自家用車で出勤している人も多い  
ので、多い傾向にある。

(委 員) 先ほど議事(3)の子供の交通事故件数の説明があったが、  
夏休みが多いとか、登下校時が多いとか、どのような傾向があるのか。

(幹 事) 夏休み中は確かに多いが、学校がある時期も夕方に事故は発  
生している。

(幹 事) 月別に見ると4月、5月が増加傾向にある。春の全国交通安  
全運動はそうした時期に実施して啓発している。また、小学校3～4年  
生は自転車運転中の事故が増えるので、小学校4年生には自転車免許の  
取得などの交通安全教育を実施し、対策を行っている。

(議 長) 他に意見等がなければ議事を終了する。

(事務局) 事務局より連絡事項がある。昨年9月に開催した川口市交通  
安全市民総ぐるみ大会には、たくさんの方にご来場いただき、交通安全  
意識の高揚を図ったところである。来年度は、9月23日土曜日、秋分  
の日に、今年度同様、南平文化会館での開催を予定している。後日案内  
状を送付するのでぜひご臨席いただきたい。

#### 4 閉会

(事務局) 以上で令和4年度第2回川口市交通安全対策協議会を終了す  
る。